

## 季節のご挨拶

明けまして、おめでとうございます。

2022 年の出来事をまとめた「季節のご挨拶」を、今年も遅くなりましたが送らせていただきます。

2022 年にも大きな出来事は多々ありました。

その中でもコロナ禍で 2 年半、帰国出来ないでいましたが、7 月によりやくにして帰国できました。しなければならないことが多々あり、いつもより長く、2 ケ月、滞在しました。マスク姿の人たちが町にあふれていて、吃驚しました。

「高齢者講習のお知らせ」というハガキが日本の留守宅に届き、講習は 7 月下旬とありました。この講習を受けないと、運転免許証の更新ができません。今後の運転免許をどうするかを決断を迫られました。よくよく考えてみて、日本の運転免許証は返納することにし、NZ のものだけにすることにしました。終活の第一歩を踏み出しました。



11 月には英国在住で、リンパ腫という血液のガンに罹ったジリアンの姉が、娘や妹たちに会うため NZ に、アメリカ経由でやって来ました。日本を中心に据えた世界地図では想像しにくいかもしれませんが、英国と NZ は、地理的に正反対に位置しています。それで意外なようですが、どちら周りフライトでも、距離的にはほとんど違いがありません。ステージ 3 ということで心配していましたが、それほど問題もなさそうで、安心しました。

同じく 11 月には、日本のことを英語で紹介する本を日本財団から寄贈されたので、このセレモニーを日本図書館プカプカで開きました。参加者も多く、久々に図書館も賑わいました。

12 月 5 日には、ヒトシがコロナに感染していることが判明しました。家から外出せず、ジリアン以外とは、ほとんど完全に人と会わない生活を続けていただけ、ショックも大きかったです。幸い、ジリアンは感染していませんでした。症状は酷い腰痛となり、体温が上がり、食欲不振、味覚及び聴覚障害、気力低下などに陥りました。医療機関に行くこともなく、静養を続けたただけですが、12 月下旬になるとそれなりの生活に戻りました。

今後、文中に H とあるのはヒトシ、J はジリアンです。

最後まで、お読みいただければ幸いです。私たちの生活がお分かりいただけます。

## 羊がやって来た

待望の羊たちがわが家のパドックにやってきました。

これまで長年、ずっと放置したままで草ぼうぼうの 2,700 m<sup>2</sup>の土地に、ようやく羊が入ってくれました。

最近、J の高校生時代の同級生が、わが家の近くに家を購入して、オークランドから引っ越してきました。彼女のパートナーは畜産の知識と経験があり、パドックのフェンスを羊用に修理してくれると言うので、羊を入れることになりました。5 月にフェンスやゲートの修理が終わり、12 頭の羊が友人宅のパドックから引っ越してきました。これでこの羊たちは、友人宅のパドックとわが家の 2 ケ所のパドックを、草の育ち具合をみながら、ぐるぐるローテーションすることになったのです。

毛を取る羊ではなく、肉用です。さぞかし賑やかなことになるかと思っていましたが、羊たちは案外、鳴かないのです。英語では、羊は BAA BAA(ばあ～ばあ～)と鳴くと言われ、日本語ではメエ～メエ～ですが、鳴き声を聞くことはほとんどなく、静かなものです。驚いたことに、この羊たちの小屋というものはありません。雨になっても、夜になっても、そのあたりにいるということになります。タフなものです。動物には水を入れるバケツが要るものとばかり思っていましたが、羊には要りません。草の水分でいいようなのです。

入って来た羊たちには、尻尾があります。長く伸びて、地面に届くまで伸びています。大規模に飼われている羊たちには尻尾がありません。これはフンが尻尾にくっついて不衛生になるためとか。尻尾は子羊のうちに切り落としてしまいます。

近くでしげしげ眺めてみると、これまで持っていた羊のイメージとは違うことに気づきました。これまでアンパンマンのような丸顔で、目の位置は上下の真ん中あたりにあるものと思っていたのですが、意外にも顔は細面で、目の位置も上から 1/3 あたりにあり、ヤギに似ています。ヤギの一日は、ほとんど草を食べることに費やされます。本当に、よく食べています。

## キウイ

わが家には、オスのキウイの大木があります。今の家を買った時、前々の所有者が植えたものが生き残っていたのです。その人は、今の場所ではない道路沿いの崖の上に家を建て、その家の旧駐車場の上に覆いかぶさるようにしてキウイが生育しています。

オスの木ですからメスの木がないと実は成りません。H が接木したところ、初め頃は接ぎ木は成功しても、風が強くて折れてしまったりしていたのですが、そのうち丈夫に枝を伸ばすようになりました。そしてたくさんの実を付けてくれるようになりました。

|        |         |
|--------|---------|
| 2020 年 | 2,425 個 |
| 2021 年 | 929 個   |
| 2022 年 | 2,605 個 |

屋根は波型の金属で覆われています。古くなって所々、錆びたりして穴が開いているので、手入れは簡単ではありません。足場となる板や竹竿を使って、成っている実はすべて収穫できています。

ところが 2023 年は、どうも成りがよくありません。ここ数年の成りすぎの結果のようです。今年のキウイには少し休んでもらうことにしました。

## 化学肥料

これまで、ガーデニング（家庭菜園）をするのに、肥料分としては牛や馬のフンを利用してきました。しかし、こうしたものは効き目がゆっくりなので、ともすれば肥料不足になるのが気になってきました。

そこで、今年から化学肥料も使ってみることにしました。最初に、元気のなかったイチゴに使ってみました。すっきりとよく効いています。今後は、化学肥料だけに頼るのではなく、併用することになりました。

## 野鳥あれこれ

野鳥天国のニュージーランドだが、鳥それぞれに特徴のある生き方をしています。

### ブラックバードの子育て

ブラックバードというスズメ目ツグミ科の鳥がいます。和名はクロウタドリというだけあって、なかなかいい声で鳴きます。ここでは、とてもポピュラーな鳥です。大きさは 28cm 内外。その名の通り、オスは全身真っ黒で、目の周りと言がオレンジで、とてもバランスがよく、愛嬌のある鳥です。メスは全身褐色で、オスとの見分けは至って簡単です。

10 月に庭のアペリアの木に巣を掛けているのを見つけました。巣の高さは、ちょうどHの目の高さで、手を伸ばせば巣に触れられるほどの低いところでした。初めのうちこそメスも巣ごもりしていましたが、そのうち巣を空ける時間が長くなってきました。餌を探してに出掛けているのかと思い、観察を続けました。親鳥がいないときは、雛は嘴を空に向けて、口を開けたり閉じたりしていました。かなり長い間、餌もないようでしたが、首のあたりが脈打っていたので、ああ大丈夫、生きていますと確認しました。しかし、ある朝、雛の姿が消えてしまいました。あの雛たちが飛び立ったとは到底思えません。かといって、巣の下には姿はありませんでした。不思議な幕切れでした。

ちょうど同じころ、隣人との境にあるフェンスにもブラックバードが巣を掛けているのを見つけました。この巣の高さも、1.2m くらいと低い所にありました。ここは家から遠いので毎日の確認はできませんでしたが、ある日、巣が空になっていました。こちらは無事に飛ぶたったものと思いたいです。

この2例からすると、両方とも、本当に低い所で子育てするところを見ると、低い所でも天敵もなく、つくづく、安心して暮らしているようです。

### ツバメの巣づくり

今年のツバメの子育ては、早いものがありました。11 月の中旬には既に雛が飛び回り始めていました。ツバメは子育てを始めようとする、前年までに使った巣を手入れして使ったり、新しく作ったりします。これまでにわが家には 2 つの巣があり、去年は 3 つ目を玄関の扉の上にかけて始めたので、これだけは邪魔をして、巣を作れなくしました。2020 年 12 月の末に図書室の外側の角地に巣をつくり始めました。ここのところ、あまりいいことはありません。ツバメは幸せを運んで来てくれると言います。巣作りを許可しました。巣が出来たら、子育てを始めるものと思います。

### 迷子のウズラの雛

ウズラは子たくさんです。よく数えられないのですが、一組のつがいで 7-8 羽くらいの雛を連れ

て、地上を歩いています。先日は、郵便ポストを見に行く途中で、危うく雛を踏んでしまいそうになりました。体長は 6-7cm で、いつもはびよびよしながら、みんな一緒に行動しています。先日は、一匹だけがはぐれていたのです。しばらく目を離していたら、姿が見えなくなりました。ちゃんと他の雛たちと合流できたのならいいのですが。春は子どもたちが多いので、歩くのも注意が必要です。

雨が降り続いた後、久しぶりに晴れた朝、洗濯物を外に干そうと外に出たら、ウズラの雛が一匹、死んでいました。やはり、野鳥の天国のように見えますが、生きることは大変なようです。

### 煙突掃除屋さんのマイナ

歌舞伎の悪役俳優並みの顔つきをしたマイナという鳥がいます。遠くインド辺りから移住してきた鳥です。マイナとブラックバードをネットで調べてみて、初めて同じファミリーと知りました。言われてみれば、姿かたちはよく似ています。ただ顔つきは正反対です。ブラックバードは愛嬌がありかわいらしいですが、マイナは悪役です。目の周りにオレンジ色の歌舞伎のような隈取があります。強い縄張りの習性があり、他の鳥の巣を乗っ取ったりします。

その習性のためか、好奇心が強いためか、煙突を通して、薪を燃やすところに入っていることがあります。かさこそ音がするので、【あ、入っているな】と分かります。大抵の場合、怪我をしている様子はありません。煙突の中で、バタバタしながらゆっくりゆっくり落ちてくるようなのです。ある意味、このプロセスで煙突の中の煤(すす)を払い落としてくれているかもしれません。煙突の直径は 15cm で、高さは 4.6m あります。この中をすす払いしてくれながら、降りてくるのを想像すると、漫画的ではほえましいものがあります。このようなことをする鳥は、決まってマイナです。

仕方がないので、マイナが少し弱わるまで、ストーブの中に閉じ込めた後、部屋の窓をすべて開け、捕虫網で捕まえるなどして、外に出してやります。すると、元気に飛び立っていきます。

### オコジョ

オコジョという胴長短足のイタチ科の動物がいます。日本では寒い地域に住んでいます。H は北アルプスの焼岳に登った後、下山中に見たことがあります。小さくて、ちょろちょろ機敏に動く、小型のかわいい動物です。夏だったので、体の色は茶色でした。

そのオコジョが、わが家にもいることを発見して、びっくり。ガレージのそばに材木を積んでいますが、草むらからひょこっと顔を出して材木の上に登って来たのです。オコジョに似ているなとは思いましたが、まさか NZ にいるとは。インターネットのサイトで確認するまでは半信半疑でした。

この国は畜産業が盛んです。その畜産業の大敵が、ウサギです。ウサギは牛、羊の主食の草を食べてしまいます。そこでウサギ退治に導入されたのがオコジョだったのです。まさか NZ でオコジョを見るとは思いませんでした。ガレージや、時として家の中まで出沒するネズミを捕ってくれたら、オコジョ、大歓迎です。わが家ではウサギの目立った被害はありません。野外のペット、アイドル的な存在で、かわいい仕草を楽しんでいます。

これまで NZ には肉食動物がいないので、野鳥の天国と書いてきましたが、オコジョの出現でその考えも変えざるを得なくなりました。「野鳥あれこれ」に書いたウズラの雛なんか危ないものです。この地に住んで 10 年と少しとなりましたが、初めて一匹のオコジョを見ただけですから、それほど生育密度は高くはないはずです。野鳥がばたばた襲われるようなことはないでしょう。

## スイフヨウ

スイフヨウという花があり、漢字では醉芙蓉と書きます。花の色が朝は白、午後には桃色となり、夕方には紅色に変わります。恰もこの花がお酒でも酔って色を変えるように見えるところから、その名が付けました。J が友だちのおばあさんからスイフヨウをもらい、それを挿し木で増やしたものがありました。わが家に海外からのお客さんがいると、記念植樹してもらうことがあります。2018 年の年末、日本から 3 人の来客がありました。家に近いガレージのそばで目立つ場所にスイフヨウを植えていただきました。

来客のうちの一人の女性が 5 月に結婚されることになりました。ちょうどその前に、偶然にも記念植樹してもらった醉芙蓉が初めて咲き、その花をバックにビデオレターを作って、結婚式に贈りました。

## 地 震

2022 年の年末から新年にかけて立て続けに 5 回 (マグニチュード 5.8,3.9,3.0)、地震がありました。北島のほぼ中央部に位置する Hauraki District に住んで 10 年以上になりますが、これまでに体に感ずる地震は一回だけでした。発表されている地震危険度地域によれば、危険度を 3 つに分けて、分類してあります。それは危険度高、中、低の 3 つです。Hauraki District は中です。先日の地震の震源地は、Hauraki District の南隣に位置する Matamata-Piako District のデアロハでした。

気象的にも何か異常な感じです。新年になってもストーブを焚かないと寒かったり、雨の日が続き、長袖シャツにセーターを着たりしています。

世界的にあまり良くないが続いていますが、この地震や低温が何かの凶兆でなければと願っているところです。

## マタリキ(Matariki)が公休日に

2022 年は 6 月 24 日でしたが、ニュージーランドの先住民マオリの人々にとっての新年「マタリキ」が公休日となりました。マタリキは NZ が本格的な冬に突入する 6 月中旬頃に訪れますが、正確な日は毎年異なります。マタリキとはマオリの言葉でおうし座のプレアデス星団のことで、日本では昴(すばる)と呼ばれるこの星団が北東の空に昇った直後の新月を、マオリ社会の新年と定めています。

北半球で言えば、クリスマスや新年と大体、同じ頃に当り、一年でもっとも夜が長い時期に当たります。

## 一年定期預金の利率が 5.25%に

世界的なインフレの余波がニュージーランドにも及んできて、NZRB(ニュージーランド準備銀行、日銀に相当)は 1 月に 0.75%だった政策金利を、12 月までには 4.25%まで引き上げました。この 1 年に 7 回の小刻みな利上げし、利率は 3.5%上げたことになります。

これを受けて、各銀行の定期預金利率も上昇しました。H が預金している Westpac 銀行の一年定期預金の利率は 5.25%(利子税込)となっています。これだけの利率があると嬉しいですが、物価は高くなっています。

## 不動産価格が暴騰

3月の地方紙に私たちの住むハウラキ地域の不動産の上昇率が全国でトップとなったとありました。この上昇の理由として、当地がオークランドに近接していることやインフレによるものと考えられます。

不動産取引には不動産取引専門弁護士(conveyancer)が介在して行われ、売買が成立すると登記関係などの仕事は、この弁護士を通して行われます。その際には売買価格なども、報告されます。そうした結果を集計を受けて、全国の不動産動向を知ることが出来ます。

ハウラキ地域の平均価格は81.6万ドルで前年比で38%、3ヶ月前比で14%の上昇でした。81.6万ドルは、為替を85円/NZ\$として計算すると、約7千万円ほどになります。Jの出身地であるチームズ・コロマンデル地域に至っては、126.6万ドルと何と1億760万円と異常な価格となっています。この値上がりでウハウハなのは、固定資産税を扱う地方自治体です。固定資産税は、不動産の評価額に基づいて、算出されます。私たちは2009年9月に、この中古住宅を購入しましたが、その時の評価額は土地が140千ドル、資産価値が355千ドルで、合計495千ドルでした。最新のものでは土地315千ドル、資産価値が605千ドルで920千ドルまで上昇しました。

これに伴い、わが家の固定資産税は13年間で84%上昇しました。酷いものです。ただささやかな救いは、評価額の上昇率が3倍ほどになっているにもかかわらず、固定資産税額が84%で止まっていることです。Hは、固定資産税の毎年の上昇に不平たらたりますが、案外、この地の人たちは平然としているようです。これは一つには、毎年インフレで物価上昇があるNZの人たちと、ない国のHの感覚の違いのようなのです。

## ドギーバッグが有料に

ドギーバッグとは、レストランなどで食べ残した料理を、ちょっと気取って「自宅で飼っている犬に食べさせるのよ」といって持ち帰ることを言います。実際は自分たちが家に持ち帰って食べるのです。この国では、食べ残しを持って帰るのは、一般的な行為です。ただ、これまではこのプラスチックの容器は只でしたが、10月にオークランドに行った時は、有料となっていました。新しい変化です。

ドギーバックではありませんが、中華の店では、プラスチックの容器に各種料理を詰め放題で幾らというサービスがありますが、Jはこれまでに使った容器を持っていき、1ドルくらいですが値引きに成功したこともありました。

プラスチック容器の使い捨てから、使いまわし・再利用となるか注目しているところです。

## Save time, do it online. (時間を節約したいなら、オンラインを使いなさい)

NZ交通省からの郵便物の表(おもて)に書いてありました。日本のデジタル庁、前途多難なようですが、早く日本のお役所もオンラインで仕事が出来るとなればと願っています。

## 雑煮のない正月

2023年の正月は、あわや雑煮のない正月となりかけるところでしたが、Jの機転のお蔭で切り抜けられました。ずう〜と長く保管していたタイ産のもち米と使って、餅を作ったのです。恐る恐る口にしましたが、案外、おいしく食べられました。何とか雑煮らしいものを食べて新年を祝いました。

これまでになる前に、餅を入手するために何もしていなかった訳ではなく、オークランドにある日本食材の店に、クリスマスの後に、オンラインでもちの注文をしてありました。しかし届くのが遅れた結果でした。こちらの宅配は、届くのがいつになるのかが分かりません。それで翌日配達などのスピードが求められる生鮮食品や冷凍食品の注文はできません。注文していた荷物が届いたのが、1月5日でした。この日は、ちょうど何とも寒い晩でしたので、ストーブを焚き、その上で餅を焼いて食べました。

## Hがコロナ感染

年末となった12月5日、Hはコロナウイルスに感染したことが判明しました。この頃、カボチャの苗が大きくなり、日々、植付場所として草地を畑にする作業に集中していました。夜になり、寝ようとして布団に寝っ転がっても、腰が痛く、朝起きててもまだ痛い。腰の芯の所が痛いのです。肉体作業による普通の腰痛とは違うのではないかと思います、9月に日本から帰国した時に空港の検疫でもらっておいたPanbioというコロナ検査キットを使って検査してみたところ、感染している（陽性）と判明しました。一緒に住んでいるJは、幸いにして感染なしと出ました。

この地でも感染者は多いのですが、感染したからと言って、医療機関に行く人はいません。その後、医療機関に行くこともなく、自宅で静養の日々を続けました。感染が判明した日の体温が37.6度で、この値が一番高い体温でした。Hの平熱は35度台ですから、これはとても高いです。食欲がなく断食状態が続きました。腰痛は一週間ほどでなくなり、食欲も徐々に回復しました。久々に体重計に乗ると、感染前と比べると5kgほど減っていました。お酒も発病後、10日目にして呑めるようになりました。困ったのは、味覚が分かりにくくなったことです。もちろん、醤油、塩、砂糖などの味の区別はできるのですが、旨みを感じられなくなりました。

あまり身動き出来なかった頃から、わが家の一郭にある日本図書館プカプカにある全20巻の芥川龍之介全集(昭和29年、岩波書店発行)を読んで過ごしました。コロナという病気に感染したにもかかわらず、いい心の休養期間になりました。ひょっとしたら、Hにとって人生の転換点を与えてくれることになるかもしれません。

感染してから一か月が経過しましたが、まだ夏風邪のような症状が続き、くしゃみや痰はでています。味覚障害、聴覚障害は、まだ続いています。

## ステンドグラス

去る11月16日に日本図書館プカプカで、日本財団からの英語の本の寄贈式を開きました。お客さまに来ていただくということで、2009年にこの家を購入して以来、10年以上一度も掃除したことのなかった玄関のステンドグラスを水拭きした後、コップなどを磨き上げる布で仕上げてみました。ガラスの透明度が上がり、見違えるようになりました。

ここではステンドグラスは、それほど特別なものでもなく、骨董屋さんに行けば、ステンドグラスをはめ込んだ玄関のドアが、かなりたくさん並べてあります。わが家には玄関以外にもリビングに6枚、バスルームなどに2枚のステンドグラスがあるので、これを機会に、天気が良くなったら、磨いてみるつもりになったところです。



## オンラインによる医療相談

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、病院へのアクセスが制限されるなど健康面での不安を抱える全世界の在留邦人向けに、オンラインによる無料の医療相談・精神カウンセリングが、2月1日から3月31日まで実施されました。ポイントは無料で日本語で相談できるといったあたりにありました。

右足の膝に痛みがあったHが、このサービスを利用して相談してみました。当然のことながら、触診はありません。何か、もう一つ満足できませんでした。

## 日本への帰国

日本国のコロナ水際対策が緩和されたので、2022年7月に2年半ぶりに帰国できました。いつもの帰国時よりも長く、約2ヶ月滞在して、事務処理、病院通い、国内旅行に時を費やしました。

事務処理はオンラインで出来ることも増えたのですが、すべてのことがネットで処理できず、対面で解決しなければならないことも多くあります。どうも日本の組織は、メールでの問合せは嫌いで、対応してくれないところが多いので困ります。

## 国内旅行

高山に滞在したあと、金沢、東北（秋田、青森、岩手、宮城）を旅しました。

まずバスで高山から金沢に行きましたが、Hは金沢駅でパスポートを忘れたのではないかと気づきました。バックパックなどを探しても、見つかりません。かなり焦りました。バスの時刻表を見ると、高山まで日帰りで往復できるバスがあり、これを予約しました。どこに置いたか、確たる場所が思い浮かびません。バスの中では、あれやこれやと思いを巡らせました。

家に戻り、いちばん可能性の高い、書類関係の整理棚を探しました。幸い、ここにありました。前日に荷物の整理した時には、大丈夫と思ったのですが、このざまです。老化の弊害ですが、今後のいい教訓としました。もし、金沢で気付かなかった、東京から取りに帰ることもありましたし、最悪、東北を旅している間も気づかず、出国時に気づいて、NZに戻れないという悲劇にもなりかねないところでした。とんだ旅の始まりでした。

このところコロナ禍で旅ができず、JAL、ANAとも手持ちのマイルが残っていて、小松→羽田、羽田→秋田には飛行機で移動しました。東北の旅は、秋田から始め、青森、岩手、宮城とレンタカーでぐるっと右回りしました。

私たちの旅で訪れるポイントは、次のあたりにあります。

## 伝統的建造物群保存地区（伝建地区）

Hの高山の家がこの伝建地区にあり、家も土蔵も伝統的建造物に指定されているところから、勢い全国の伝建地区には興味があります。全国を旅する時、伝建地区があればなるべく訪ねることにしています。

今回は、2か所の伝建地区に行きました。

青森県弘前市仲町      武家町

青森県黒石市中町      商家町



## 骨董店、アートギャラリー

家には物があふれていますが、思わずにっこりしてしまう物や不思議の雰囲気を感じた物を見つけると思わず、手が伸びます。骨董店、アートギャラリーがあると、せっせと足を運びます。骨董店は、その町の文化の体温計のように思います。

## 温 泉（玉川温泉、<sup>す</sup><sup>か</sup><sup>ゆ</sup>湯温泉、<sup>あ</sup><sup>お</sup><sup>に</sup>青荷温泉、<sup>げ</sup><sup>い</sup><sup>う</sup>夏油温泉、<sup>なる</sup><sup>こ</sup>鳴子温泉）

これまでも、ぼちぼち全国の温泉に出掛けていましたが、今回は東北の源泉かけ流しの温泉を集中的に訪れました。NZに住んでいると、湯舟に浸かることが少なくなります、シャワーで済ませてしまうからです。どっぷりと温泉に浸かりたいという思いがだんだん強くなってきていました。訊ねた温泉は、昔ながらの湯治の雰囲気を残していて、十分に満足できるものでした。どの温泉も湯治の時代の混浴が残されていました。

日本の温泉は、世界にも誇るべき自然が与えてくれる宝物です。今後の日本での国内旅行でも、温泉を組み込んだものにするつもりです。

## 窯 元

Hは趣味で、生活で使える焼物を集めてきました。全国にある窯元があれば、極力、行ってみることにしています。

## 美術館・博物館

やはり、美しいもの、珍しいもの、ミステリアスなものには興味があります。

## レンタカー

東北4県を、秋田から始めて青森、岩手、宮城とぐるっと右まわりで一周しました。12日間で走行距離は約1,500kmで、L当たりの走行距離が18.05kmと、とても燃費のいいのには驚きました。カーナビが付いていたので、田舎道を選んで走りました。高速道路を使えば時間はセーブできますが、側面を壁で囲まれた高速道路では、周辺の地域ごとの雰囲気は知ることが出来ません。運転していても田舎の道では、家の佇まいなどの雰囲気の違いを楽しめます。

レンタカーのお蔭で、公共交通機関ではなかなか行けそうもない山間部に位置する源泉かけ流しの温泉にも行けました。今後の帰国の際の旅にも、レンタカーを組み込んだ旅を計画しようと思っています。

## 制限時速

日本の高速道路を運転していて、いつも疑問に思うことがあります。それは制限時速が、しっかりと表示されているにもかかわらず、ほとんどの車が守っていないことです。HのNZの経験からすると、制限時速プラス5kmまでは許され、それ以上となると、スピード違反とされます。NZでは、ほとんどの車が制限時速を守って運転しています。

『本音と建前の国・日本』とは言っても、この制限時速のことでは、そのギャップが大きすぎませ

んか。ちなみに、NZ の無料の対面通行の高速道路の時速は、ほとんど 100km/h です。NZ のドライバーは制限時速を、実によく守って運転しています。

### 動物の死骸が道路上にない

今回、かなりの田舎道や農道を走りました。そして気づいたことがあります。それは『何と道路がきれいか』ということです。動物の死骸が道路上に全然なかった。これは野生生物が減ったことの証なのでしょうか。ヘビが道路を横切ろうとしているのも、一匹も見ませんでした。

NZ で田舎道を走れば、事故死した野鳥がかなり道路上に放置されています。誰かが死骸を投げ捨てかもしれないボッサムやハリネズミの死骸を加えると、道路上はもっと賑やかで酷いものとなります。

### 旅 館

旅館に泊まるのを恐れています。それは出される料理の品数が多すぎることです。食べきれないほど、たくさん出てくるのは恐怖です。残したものを捨てられるのが平気ならいいのですが、それが気になります。私たちは小食ということもあり、恐怖です。これまでにはタッパウエアに詰めて、翌日のお昼に食べることもありました。ベジタリアンの J が一緒ですから、肉が多いと残り物が多くなります。予め旅館のホームページをたくさん見ましたが、料理で高いものは肉料理や海鮮料理が多いです。これだけベジタリアンやビーガンが増えている昨今、野菜やキノコなどを材料とした高級料理の開発が待たれるところです。

今回の東北の旅では、久しぶりに旅館に泊まりました。安い宿が多かったせいか、時代が変わったのかバフェ（バイキング）方式が多く、食べ残すこともなく、ゆっくり食事を楽しめました。旅館での不満の一つが、デザートがないことです。

### 旅行中の宿探し

東北を旅行中は、パソコンを使い、次に行く宿を予約しました。ところが町によっては、『東北 6 県、北海道在住者限定。ワクチン証明書提示必須』ばかりで、宿探しに苦労したことがありました。いくら地元が大切と言われても、如何にも私たちはよそ者扱いされたようで、気分がよくありませんでした。

### 携帯電話

日本の事務手続きには、ほとんどといっていいくらい電話番号が必要です。

これまではプリペイド式の電話を持っていました。これなら電話番号は、ずっと変わらず同じで利用できました。ところが、プリペイド式の電話が犯罪に使われるとのことで、廃止されるようになりました。そうすると残された手は、次の 2 つのうち、どちらかとなりました。

- (1) シムカードの入る携帯電話を NZ で購入し、帰国のたびにシムカードを購入して通話する
  - (2) 日本の携帯電話に加入する
- (1)を選ぶと、帰国のたびに電話番号が変わります。私たちは NZ でシムカードの入る携帯電話を持っていないので、これを選ぶと新たに携帯電話を買わなければならない。

(2)を選ぶと、利用しない期間が年に9ヶ月ほどとなり、その分の利用料を払うのが馬鹿らしい  
今回、仕方なく(2)を選び、利用料の安い楽天と契約しました。新宿の店で相談しましたが、日頃、携帯電話を使わない私たちにとっては、秘密結社へ加入するような困難さがありました。使われている言葉も、日本語なのかどうなのか、略語や初めて聞く言葉が多く、よく分かりません。今後、ちゃんと使えるようになるかどうか不安です。

## 銀 行

Jの預金通帳の住所変更をするため、メガバンクの支店に開店時間の9時に出掛けました。受付に立っていた行員は、さかんに予約はとってあるかを訊ねてきます。もちろん予約はとってありません。住所変更ですから、そんなに手続きが難しいものとは思われません。この支店では埒が明かないので、これまでの経験から本店に行きました。ここで、何とか住所変更が出来ました。

支店での光景は、AIの導入が続き、行員が要らなくなってしまうので、その対抗策で、手続きをわざわざ面倒にしているとしか思えません。

## 日本の運転免許証を返納することに

Hは日本の運転免許証とNZのものと2つ持っています。今後、どうするか。大きな課題の一つですが、あれやこれや考えた結果、日本のものを返納し、NZのものを保有して、更新していくことにしました。

これまでNZで持っていた運転免許証の有効期限が、2022年7月17日でした。この免許証は、10年有効で、2012年に書類申請して取得したものです。この時には、試験とか実技とかは何もなく、日本の運転免許証を持っていき、書類を書いて申請して、即日交付してもらったものです。この免許証が期限を迎えるとなり、今後、どうしようかを考える切っ掛けとなりました。終活の始まりです。考えなければならない一番のポイントは、日本の制度では75歳になると、更新が厳しいところにあります。

この2022年7月17日期限の免許更新の手続きをすることにしました。手続きの日は、有効期限以前の日ならいつでもよく、予約を取る必要もなく、直接、地元にあるAA（日本のJAFに相当するが、政府からより大きな権限移譲されている）に行きました。Hは5月31日に出掛けました。手続きには申請書、現在の運転免許証、日本の運転免許証、パスポート、お金を持って出掛けました。観光インフォメーションの一郭が、このAAの事務所となっています。ここの職員は観光案内とAAの事務とを合わせて受け持っています。待つことなく書類チェックが始まり、写真を撮ってくれ、パスポートなどがコピーされ、手続きは終わりました。この間の所要時間は15分。何とも素晴らしい。新しい運転免許証は一週間後の6月7日に普通郵便で届きました。写真は、少しボケていました。これで、2023年の誕生日まで有効の免許証を取得しました。

75歳になると、更新の前にGP（かかりつけ医）の所に行き、視力検査、血液検査、簡単な認知症の検査を受ける。あと身体的な問題についても自主申告しなければなりません。これらの結果、GPが問題なしとすれば、AAで更に5年間有効の運転免許証が交付してくれます。GPの診断時に、通訳は同席できます。日本のような高齢者講習や実技のチェックはありません。

日本での75歳のハードルは、次のようです。

### ① 認知症機能検査（記憶力、判断力）

## ② 高齢者講習

## ③ 手続き

このハードルを越えないと、運転免許証の更新はできません。

NZ の運転免許証があれば、日本で運転したい時は、NZ で発行された国際運転免許証があれば問題ありません。このことから、次のように判断して、日本の運転免許証は返納し、NZ の運転免許証を保有し、更新していくことにしました。

- \* 日本での 75 歳以降の認知症機能検査などが問題なくクリアできるかどうか分からない
- \* 日本で運転をしたい時は、国際運転免許証を持参して帰国すればいい
- \* 日本での本人確認によく使われる運転免許証の代わりに、「運転経歴証明書」を取得することにする
- \* NZ の運転免許証を持っていた方が、75 歳以降の 5 年ごとの免許更新が楽にできそう

大都市を除いて公共交通機関が未整備のこの国では、やはり自動車がないと生活が成り立ちません。公共交通機関が整備された日本と比べたら、運転免許証の更新が甘い感じがありますが、現実的対応なのでしょう。

## 旨いもの、美味しいもの

### 手作りコーラ

毎年、このタイトルで書いていますが、今年は、あまりありません。

唯一あるのは、9 月に東京の喫茶店で飲んだ手作りコーラです。飲んだ日は、秋田で早めに準備してもらった朝食を無理してしっかりと食べたあと、飛行機で東京に移動しました。寝不足と食べ過ぎ状態でした。J の友人と会い、お昼を食べることになりました。とても食事をする気分ではありません。そこで目に入ったのが、手作りコーラ。手作りコーラのニュースは見たことがありましたが、入ったのは、そのニュースの店ではありません。

それほど期待していなかったのですが、飲んでみると、市販のコーラのようなピリピリする舌触りはなく、さっぱりとしていて甘みも美味しいコーラでした。色は薄く、リフレッシュメントにふさわしいコーラとの出会いでした。

先日、日本食材に注文した品々が届きました。その中には、あの美味しいという触れ込みの新潟産コシヒカリも入っていました。いつもは豪州産の短粒種の米をスーパーで買って食べています。コシヒカリというブランド、楽しみに土鍋で炊いて食べてみました。ところが、何の感激もなく、[豪州産と何が違うの? ]といった感じでした。コロナに感染してから、どうも味覚もやられたようなのです。こんな調子では、2023 年の「旨いもの、美味しいもの」は見つかりそうにないかもしれません。

## 空 気

先日の日本財団図書寄贈式にオークランドから参加していた女性が、『ここは空気は美味しい』と言ってくれましたが、H にとっては、このことが今ひとつ理解できません。空気に味があるとは思えないからです。公害で大気汚染の町の空気と比べたら、すんなりと吸える空気とは言えるかもしれませんが、美味しいとまでは、どうかな? このテーマ、まだまだ考えてみる価値はありそうです。

## 日本図書館プカプカ

日本財団が主催する Read Japan Project 2021 に私たちの日本図書館が選ばれ、74 冊の英語の本が寄贈されることになり、この機会に日本財団図書寄贈式を 11 月 16 日に開催しました。このプロジェクトの英語の本の寄贈を受けるにあたっては、在日本オークランド総領事館の大変なご尽力を頂きました。と同時に寄贈式には濱田総領事にご出席いただきました。当日は 21 名の参加者を得て、日本図書館プカプカ（プカプカとはマオリ語で図書館の意）の再出発の決意を新たにしました。



折から、わが家のバラフェンスがちょうど満開を迎えていましたので、コロナ像も入れて記念撮影をしました。

今後は、図書館としての利用に加え、日本文化紹介の拠点としていくことにしました。1 月には日本からの陶芸家のご協力を得て、講演会を開くことにしました。より広く当館のことを伝えるため、近くホームページを立ち上げることにしました。

なお、この寄贈式のことは、在日本オークランド総領事館のホームページの掲載されました。

[https://www.auckland.nz.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/past\\_events\\_j\\_20221116.html](https://www.auckland.nz.emb-japan.go.jp/itpr_ja/past_events_j_20221116.html)

## ドンベとマリオ

ドンベとマリオというのは、H が 2013 年 7 月から書き始めている物語のタイトルです。毎月発行される同人誌に毎月、A4 判 2 ページ分ずつ掲載していただいています。ドンベというのは J の 18 歳当時の女の子、マリオは 7 歳のキューピッドの男の子という設定にしてあり、物語が展開します。いよいよ、ドンベもマリオも日本で生活することになり、ドンベはワーキングホリデイを利用して日本に来てかわいいものの探しと日本語の勉強、マリオは小学校に入り自分探しを始めます。マリオは日本に滞在する 1 年のあいだに、自分が将来、キューピッドのままでいるのか人間に変身するのかの選択をしなければなりません。

2022 年から、このまでの東京弁チェックに加え、ガテン系（龍つあん）や小学生の言葉のチェックもしてもらっています。この物語の読者は同人誌の方々と、この季節のご挨拶を通して、希望のあった方々です。読んでみたいとご希望があれば、お知らせください。毎月 10 日頃にメールで無料でお届けします。皆さまにとって、2023 年が健康で、希望に満ちた年となるようにと願っています。

2023 年 1 月

アオ テア ロア（長く白い雲のたなびく国） ニュージーランドより

ジリアン・ヨーク jisabelle29yorke@gmail.com

森下 均 arbo4000@gmail.com

住 所 37 Edwin Road, RD4, Paeroa 3674, New Zealand

固定電話(NZ) 国番号(64)-7-862-6834

携帯電話(日本) 070-9059-5786